

## 2021年10月野菜概況

月の前半は全国的に高温、後半は低温だった。北日本日本海側は多雨、西日本は日照量が多かった。

10月上旬までは比較的温暖な気候で、野菜全般に潤沢な出回りとなったが、中旬からは気温が低下。ほうれん草や胡瓜、トマト等の葉菜・果菜類で生育鈍化して入荷量が減少した。気温低下で鍋物需要が喚起されて菌茸類や長ねぎ、白菜の引合いも出始めたがいずれも数量面では十分であった。月初に台風16号が関東沿岸部に接近したが大きな被害はなし。10月の野菜総入荷量は129,026t(前年比94%)で平年よりやや少なく、価格211円(86%)は平年より1割以上安い。金額は27,212百万円(81%)で平年を2割近く下回った。

**だいこん**は北海道産が生育順調ながら終盤を迎えて減少する中、千葉・茨城産が増量傾向に。全体量は十分あり、月後半は気温低下で需要が出て荷動き良好だった。総入荷量は平年より1割少なく、価格91円(93%)は平年の1割安。**にんじん**は上中旬は北海道産が潤沢に入荷して荷動き緩慢、安値基調。下旬は道産が終盤に近づき減少する中で埼玉産が出始めたが全体量は多くなく、気温低下での需要増もあり引合いが強まった。総入荷量は平年よりやや多く、価格76円(61%)は平年の5割安。

**はくさい**は長野産が8月中旬の大雨で作柄悪化して9月までは少ない出回りだったが、10月になると大雨後の定植分が出て数量多く、価格は下落傾向となった。下旬からは気温が大きく下がり、鍋商材として引合い出始めるも数量の多さから安値基調が続いた。総入荷量は平年より1割少なく、価格63円(93%)は平年の2割以上安。**キャベツ**は群馬産が上月まで潤沢に出回り、中旬以降は時期終盤で減少したが、後続の千葉産が増量して数量充分。総入荷量は平年よりわずかに少なく、価格77円(86%)は平年の2割近く安。**ほうれんそう**は上中旬は関東産が潤沢に入荷して荷動き鈍く安値基調。下旬は気温低下により生育鈍化して減少し、引合いが強まった。総入荷量は平年より1割以上多く、価格498円(79%)は平年の2割安。**ねぎ**は北海道・青森産を中心に順調入荷。上旬は気温高く荷動きが鈍かったが、気温低下にともない下旬には需要が増えて荷動きが出た。総入荷量は平年より1割近く少なく、価格260円(66%)は平年の3割安。**レタス**は長野産が上月まで潤沢に出回り、中旬からは時期終盤で減少したが、後続の茨城産が増量して数量充分の安値基調。総入荷量は平年より1割以上多く、価格117円(93%)は平年の3割安。

**きゅうり**は上旬に関東産が出荷ピークとなり増量。価格が下がり荷動きは出つつも全体量は潤沢で十分にあった。中下旬は福島産が盛期を過ぎたことや、気温低下で関東産も減少して不足に陥り相場が上昇した。総入荷量は平年並み、価格268円(63%)は平年の3割安。**なす類**は上中旬には群馬・栃木産が順調入荷。後続の高知産も増量傾向で全体量多く、荷動きは鈍かった。下旬は群馬・栃木産が終盤かつ気温低下で減少し、後続へ産地移行しつつ相場が上昇した。総入荷量は平年より1割多く、価格273円(66%)は平年の2割以上安。**トマト**は北海道・青森産が終盤となり減少傾向に。千葉産は安定的に入荷。中旬から熊本の八代産が出始めるも昼夜の温度差から裂果が多く数量伸び悩む。上中旬は前月の高値を引き摺り荷動き鈍く相場は下落したが、下旬は全体量少なく相場の上昇が続いた。総入荷量は平年並み、価格398円(71%)は平年より2割近く安。**ピーマン**は岩手・福島産は盛期過ぎて減少傾向も順調入荷。茨城産も生育良好で全体量潤沢なことから荷動き鈍く安値推移。総入荷量は平年より2割以上多く、価格255円(46%)は平年の4割安。

**ばれいしょ類**は北海道産が夏期の高温・干ばつにより小玉傾向。入荷量は少ないが高値続きのため引合いは落ち着いた。総入荷量は平年より2割少なく、価格181円(145%)は平年の5割高。**たまねぎ**は北海道産が夏期の高温・干ば

つにより小玉傾向。入荷量は少ないが高値続きのため引合いは落ち着いた。総入荷量は平年より1割以上少なく、価格119円(155%)は平年の4割高。

【輸入野菜】ばれいしょは輸入時期が国産の端境となる2~7月に限定されていたが、前年から通年輸入が解禁された。本年は国産が不作なことからアメリカ産の輸入量がゼロだった前年比で純増となった。たまねぎは国産が不作なことから、中国産を中心に前年比で増。一方、かぼちゃはコロナ禍で外食需要が減退する中、国産の価格が前年を下回ったことからニューカレドニアやメキシコ産を中心に輸入量は前年比大幅減。ねぎもコロナ禍で外食需要が減退する中で国産が安価であることや港湾作業の停滞、中国産の作付減等により前年比大幅減。アスパラガスはメキシコ産が労働力不足や港湾作業の停滞により前年比で大幅減。